

# 広報119

2013秋号 vol.16



8月24日(土)、東山地域の自主防競技会  
で救急搬送リレーの模範演技をする  
ゲイビマン。(4ページに本文)

地域の防災は  
みんなの力で!

## ●●● 今後の行事予定 ●●●

11月3日	災害救護研修会(一関会場)	1月26日	文化財防火デー
9日~15日	秋季全国火災予防運動	2月23日	消防設備士試験(奥州市会場)
9日	防火ポスター表彰式	2月下旬	優良自主防災組織等表彰式
9日	災害救護研修会(千厩会場)	3月1日~7日	春季全国火災予防運動
1月15日~21日	防災とボランティア週間	3月11日	一関市となりきんじょ防災会議の日
25日	危険物取扱者試験		

### 一関市消防本部のホームページ

WEB  
で検索

一関消防

検索

### 火災などの災害情報の問い合わせ

TEL 0180-991199

# 八月から『特別警報』の発表を開始しています

気象庁はこれまで、大雨や津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがあるときに、警報を発表して警戒を呼びかけてきましたが、警報の発表基準をはるかに超える異常な現象が予想され、重大な災害が起こるおそれが著しく大きい場合に、特別警報を発表します。



「東日本大震災」の地震動・津波、我が国の観測史上最高の潮位を記録した「伊勢湾台風」の高潮、岩手県では平成十四年七月の台風六号と梅

雨前線による大雨、平成十九年九月の秋雨前線による大雨等のような異常な現象が予想される場合に、特別警報を発表します。

特別警報が発表された場合は、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。屋外の状況や、市町村から発表される避難指示・勧告等に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。

特別警報は今年九月の台風十八号の大雨で京都、滋賀、福井の三府県に初めて発表されましたが、大雨等による被害から、あなたや家族の命を守るためには、適宜発表される注意報、警報やその他の気象情報を活用して、早め早めの行動をとることが重要です。

11月9日から15日まで秋季全国火災予防運動が開催されます。

## 老朽消火器の破裂事故にご注意を!!

皆さんのご自宅には、使わなくなつてそのままにしてある消火器はありませんか。古い消火器のレバーを握ったりして破裂したことによる死傷事故が発生しています。

不用になつた老朽消火器は販売店や廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

消火器を屋外、水回りなど湿気の多い場所に置いたことなどにより腐食していませんか定期的に点検してください。

腐食が進んだ消火器は、容器が黒く変色したり塗装がはがれたりしています。そのような場合は、破裂する危険性がありますので、レバーを握ったり衝撃を与

えたりせずに、販売店などに相談してください。

腐食・破損した消火器			
			
黒く変色している消火器	底の塗装がはがれた消火器	ふたが破損している消火器	

消火器に関する詳しい内容は、消防本部予防課または各消防署・分署にお問い合わせください。

# 四十名が避難所生活を体験

七月二十日、広報119春号をみて申込んだいただいた四十名が一関市赤荻の一関学習交流館に集まり、避難所が開設された場合どうすればよいか体験しました。

参加者は三班に分かれ、班長・副班長を選出し班内の役割分担を決め、施設管理者や班長など避難者代表による運営委員会を組織し、避難所のルールを自分達で定めて、避難所生活をスタートしました。

運営委員会を中心に、支援物資の受け入れや非常照明作成、初期消火、応急手当等の訓練を行い、次の日はサバイバルフーズの朝食も体験しました。



ツナ缶を使って照明を作成



班ごとに朝食 メイン料理はシチュー

がやってきました。東日本大震災の際には、岩手、宮城、福島で四十万人が避難したといわれています。こうした避難所の中には、普段から訓練を積んだ地域の皆さんが一致協力し、自らが避難所運営の主役となり、運営をスムーズに進めたところがあ一方で、人間関係や避難所ルールなど、これまでに経験したことのない団体生活や運営に戸惑い、様々なトラブル等が生じたところも少なからずあったようです。

避難所では、自助・共助の理念の下、避難者自らが避難所運営に参加をすることが重要です。万が一に備え、次の機会にぜひご参加ください。

## シリーズ第十五回

# 冬の感染症

県立磐井病院 救急医療科長 片山 貴晶

冬になると、いろいろな感染症が発生します。一般的な風邪のウイルスも多いのですが、インフルエンザやノロウイルス感染症も少なくありません。いずれも予防策が必要ですが、感染してしまつたら他の人に感染させないことも重要です。

多くの人はこれらの感染症にかからないように努力をおしまないようですが、逆にうつさないように努力する人は少ないようです。これも感染症が爆発的に流行してしまう大きな要因となつていきます。かからない、うつさない、が重要です。

インフルエンザにかからないための最大の方法は、大人であればワクチン接種で、子供であれば手洗いです。インフルエンザの流行は一月から二月で、ワクチンの効果発現までに一ヶ月くらいはかかるので、十一月終わり頃までには接種しましょう。

感染経路は飛沫感染と経口感染が主です。うつさないためにはマスクの着

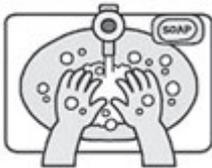


用が重要で、少しでも咳が出るなどの症状があれば、直ちにマスクを着けて他人に感染するのを防いでください。

感染した人の手指などに付着したウイルスが他の物に付着し、これが口から入ると感染します。子供は口の周りやあちこちを触ったりすることが多く、特に感染・非感染にかかわらず流行期には手洗いが重要です。水道水で構わないので、常に手洗いを心掛けさせて下さい。

大人も手洗いをするに越したことはありません。ノロウイルス感染症も経口感染と飛沫感染があり、手洗いが重要です。また、家庭用品に付着して長期間生き続けているため、流行期には常に手洗いを心掛けましょう。

てをあらおう



うがいをしよう



# 自主防災力の向上を目指して

## 平成二十五年度いちのせき元気な地域づくり事業 「自主防『絆』プロジェクト」の開催

東山地域自主防災組織連絡協議会

東山地域では、八月二十四日に長坂小学校で東山地域自主防災組織連絡協議会（長坂地区10・田河津地区8・松川地区10自主防災会）主催の『自主防競技会』が行われました。当日は自主防災会、消防団・婦人消防協力隊（消防・防災セミナー指導員）、一関市消防団なのはな隊、一関北消防署東山分署など約百八十名が参加し、長坂、田河津、松川の三地区対抗戦で初期消火リレー、バケツリレー、丸太切りレース、土のう積みレースの四種目で順位を競いました。結果は、一位長坂地区、二位田河津地区、三位松川地区の順位でした。競技開始前に行った一関市消防団なのはな隊員による救急救命体操やゲイジマンによる応急担架搬送の模範演技は、参加者の笑いを誘うなど大好評でした。



協議会が競技会を開催  
これはバケツリレー



公民館ではHUGを

また、『自主防競技会』終了後、会場を東山・田河津・松川公民館に会場を移し、一泊二日の『避難所生活体験』が二十五日午前中まで行われました。避難所の開設及び受入れを公民館職員が行った後、運営委員会を開催し避難所でのルールを取り決め、非常食の準備やダンボール・毛布を使用しての就寝など実災害を想定した避難所体験をしました。

東山分署員による研修では、避難所運営ゲーム（HUG）が行われ、ゲームの参加者は真剣に取り組んでいました。参加した皆さんは、「なかなか避難所を運営する機会がないので参考になった。」と話していました。

## 総合防災訓練を実施

東中田民区自主防災会

東中田民区自主防災会は団地、市営アパート、市営住宅・雇用促進住宅が密集する行政区であり、六月の民区運動会では「自主防災会緊急出動」という名の競技を盛り込み子供からお年寄りまで楽しみながら防災について学べるよう工夫しています。

九月十五日には大地震が発生し、ライフラインが寸断したという想定で全世帯を対象とした総合防災訓練を行いました。今年度コミュニケーション助成事業で整備した防災資機材を活用し、トランシーバーを用いた情報伝達訓練及び安否確認、担架やリヤカーを使用した要援護者の搬送訓練等を行いました。



消火訓練です



大人は搬送訓練

今後の活動は安否確認に活かすための「災害弱者台帳」および救助者側の資格や経歴等をまとめた「人材（財）台帳」を作成していく予定であり、この他にも啓蒙活動の一環として防災標語の募集や「防災は家庭から」を要点と捉え、住宅用火災警報器と消火器の設置状況を調査し今後の活動に活用する予定です。

発行日 ●平成 25 年 10 月 25 日

編集 ●一関市消防本部 〒021-0053 岩手県一関市山目字中野 140-3 TEL (0191) 25-0119